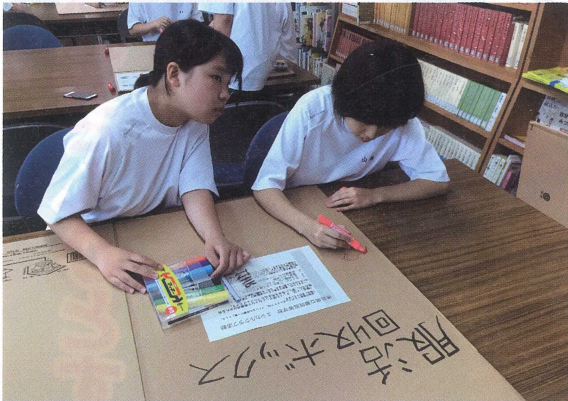


広がれ！エシカルの輪

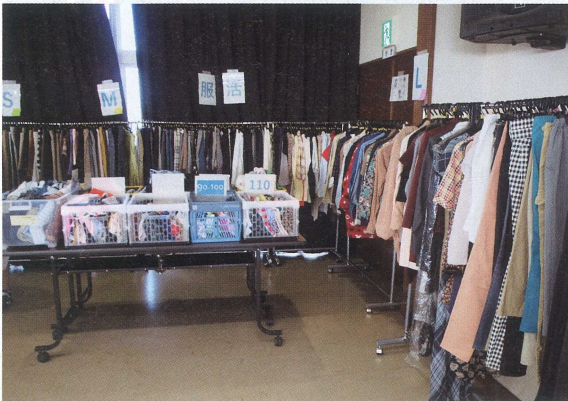
使われなくなった衣服を
新たな持ち主へ
那賀高校エシカルクラブ



回収BOXは段ボールで手作り。



集められた衣服を仕分けしていく。



ずらっと並んだ洋服たち。



「NAKAGAWA-FAM!」出店時の様子。



回収BOXには活動の内容が書かれたチラシが貼ってある。



部長の西岡七海さん。オススメの洋服と一緒にパシャリ。

身近である衣服をきっかけに、環境問題に関心を持つてほしいとの思いで2年前に発足した那賀高校エシカルクラブ。エシカルとは地球環境や人、地域に配慮した考え方や行動のことで、現在2年生7人3年生6人の計15人が活動している。必要となった衣服を集め、状態の良い物を選別し文化祭や地域イベントなどで無料で譲り渡す「服活」という活動を主にしている。衣服は小松島市のショッピングプラザルピアや子育て支援センタースマイルピアに回収BOXを設け週に1度回収。多いときは数百枚が入っていることも。集まった衣服の中から一着汚れやほつれがないかを確認し男女別、サイズ別に仕分けしている。昨年の6月に阿南市で開催された、ワークシoppやハンドメイド作品を販売する「NAKAGAWA-FAM!」に出店した際には、春夏服を中心に約700着を留意し最終的に480着を譲渡した。イベント時には参加者から「なんでタダ



顧問の濱川菜先生(前列左端)とエシカル部のみなさん。

なん？」とよく質問されるが、そのたびに部員たちはエシカル消費や活動の内容などを丁寧に説明している。部長の西岡七海さん(3年)は「まだまだ使えるものが多いので、必要な人のところで大切に使うてもらえたら嬉しい」と服活を通してエシカルの輪を広げている。